

トカゲの観察

～ 偶然の出会い～

畑 幸慶(丹波市立春日中学校)

はじめに

初夏、自宅のハウス内で家族が草引きをしていたら、土の中にいたトカゲを鎌で傷つけてしまった為、保護することにした。傷が小さくなり逃がそうとトカゲを見たところ、腹が大きくなっていたので、「卵をもっているのかも？」と思い、観察を始めた。



調査方法

- ①観察するトカゲの種類を調べる。
保護したトカゲを観察し、書籍と参照する。
- ②昼と夜にトカゲの状態を確認する。
- ③産卵後の卵の観察。
産卵後、卵の状態と数を確認する。
夜、卵に変化がないか確認する。
卵から孵ったトカゲの状態観察。
- ④標本作成
トカゲの死骸を乾燥させて、標本化した。



【観察記録①】

- ・6月1日 トカゲを捕まえる。
- ・6月29日 トカゲが卵を産卵しているのを見つけ、観察を始める。
- ・7月24日 卵が孵る。



卵の大きさ

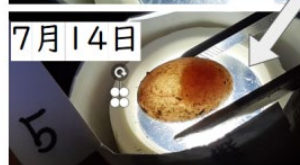


【観察記録②】

- ・卵の様子と変化



血管
卵黄膜



7月24日幼体



体節

【観察記録③】

7月9日





結果と考察

ニホントカゲ (*Plestiodon japonicus*) のメスを保護した。

トカゲは合計7個の卵を産んだ。7個中2個水没し、親に食べられた。後で人と自然の博物館の研究員の方に聞くと、状態が悪い卵があると、カビや細菌が状態の良い卵に移らないようにするため親が食べてしまうことが分かった。また、トカゲの卵は、ニワトリの卵のように硬くはなく、むしろ逆で触っただけで潰れそうなくらい柔らかかったことに驚いた。結果的に7個の卵のうち5個の卵が孵った。また、親が卵を守る為、四六時中ほとんど卵のそばにいたので、卵を離してみたら親はどうするのかという実験を8回してみた。すると驚くことに8回ともすべて離れ離れになった卵を親はまた集めたのだ。最短で、40秒。最長で47分だった。また、親が卵を探す様子は獅子奮迅の勢いであった。

考察としては、卵が孵る確率は予想していた以上に高かったがそれは卵を観察する為に自然から隔離して管理した影響かもしれない。もしかしたら、過酷な自然の環境下では、卵が孵る、生存する確率はもっと低いのではないかと考えた。

今までより上手にまとめられるよう、生き物や植物を観察したいと思います。

反省

良かった点は、捕まえたトカゲを、観察すると産卵から孵るまで、観察ができた点。爬虫類の母親は産卵後どこかへ行ってしまうが、ニホントカゲの仲間は卵の世話をする種のトカゲで卵の世話をしているところを観察できた点。

失敗した点は、トカゲを飼育する知識が少なかった事で2個の卵を水没させてしまった事と、温度、エサなどの管理も不十分だった事。もっとトカゲの生態について調べて、管理すべきだったと反省している。